

# NIE 実践報告（平成 22・23 年度）

読谷村立喜名小学校  
教諭 大城 智紀

## 1. はじめに

本校では、平成 22、23 年度と NIE 実践校として、5・6 年生（高学年）を中心に、授業の教科とリンクしながら新聞を活用してきた。

校内研での「学習指導の工夫」という観点での重点指導項目の 7 つの視点の 1 つとして位置づけ、教科・領域等で年間を通して活用できるようにしてきた。

## 2. 児童の実態

NIE（新聞を活用した授業）の指定を受け、新聞に関する実態・意識調査を行った。

①「家で新聞を購読している」 はい（75%） いいえ（25%）

②「はい」と答えた人の読む頻度」について

a ほぼ毎日（週 5 回以上）<0%> b ときどき（週 3 回くらい）<35%>

c 少し（週 1 回くらい）<50%> d 全く<15%>

家庭では、新聞を購読しているのが 75%もあるのだが、意外に新聞に目を通さないことが多い児童が多いことがわかった。

③「世の中の出来事をどうやって知りますか？」

a テレビ（44%） b 新聞（28%） c インターネット（7%）

c 親子の会話（14%） d 友達との会話（7%）

情報を得るためのメディアとして、テレビが多く、その次に新聞と続く。

普段から落ち着いて新聞を読む時間や習慣もないことが聞いてみると分かった。また、大人の感覚と違い、大人ほど、新聞が有効なメディアの一つとして位置づけられていないのも分かった。

児童にとって、新聞が身近なメディアでありながら、日常的に活用されていない原因としては、新聞の良さや手にとって見る際の見方やどうすればいいのかが、よく分からない児童も多いということが話を聞いてみると実態としてわかった。

そこで、新聞のメディアとしての役割や見方を教えることが大切だと考え「新聞の良さ・特徴」

→「新聞に慣れ親しむ」→「新聞を読むことで何がわかり、どう役立つかなど」

→「興味を持って、自分なりの視点を持って考え、読み、書ける児童」になることをイメージしていき指導を行う計画を立てていった。

## 3. 実践の概要

	平成 22 年度
実施期間	9 月～3 月
教科・領域	国語、社会、総合、道徳
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「メディアについて考えよう」（総合・社会）</li> <li>・「新聞の見比べ（1 面記事に着目）」（総合・国語）</li> <li>・「新聞の構成について」（総合・国語）</li> <li>・「新聞の見比べ（2 社の新聞を比較）」（総合・国語）</li> <li>・「新聞の見比べ（3 社の新聞を比較）地元紙と全国紙」（総合・国語） ～沖縄タイムス、琉球新報、朝日新聞～</li> <li>・「新聞の 1 面の持ちようをさがそう」（総合・国語）</li> <li>・「見出し作りをしよう」（総合・国語）</li> <li>・「新聞の見出しを考えてみよう」① ②（総合・国語）</li> <li>・「考えた新聞の見出しを発表しよう」（総合・国語）</li> <li>・「新聞ワークシートを活用して」（道徳・社会・朝の会）</li> <li>・「朝の 1 分間スピーチに活用」（朝の会）</li> <li>・「担任による新聞紹介」（朝の会）</li> <li>・「日本の産業、貿易について」（社会）</li> </ul>

	平成23年度
実施期間	4月～3月
教科・領域	国語、社会、算数、総合、道徳
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身の周りのメディアについて」(総合・社会)</li> <li>・「新聞ワークシートを活用して」(道徳・社会・朝の会)</li> <li>・「沖縄戦・平和学習に活用」(総合・社会)</li> <li>・「基地問題について考える」(総合・社会)</li> <li>・「朝の1分間スピーチに活用」(朝の会)</li> <li>・「担任による新聞紹介」(朝の会)</li> <li>・「東日本大震災について考える」(人権の日、道徳)</li> <li>・「新聞への投稿」(国語・総合・朝の会)</li> <li>・「歴史新聞、新聞の書き方について」(国語・社会)</li> <li>・「新聞記事から割合について考える」(算数)</li> <li>・「2つの新聞を見比べる(地方紙と全国紙)」(総合)</li> <li>・「スクラップ新聞 1分プレゼン」(国語・社会・総合・朝の会)</li> <li>・「スクラップ新聞作り」(総合・国語・社会)</li> </ul>

#### 4. 実践事例の紹介

##### 「1年目の実践について」

##### 【新聞の見比べ(1面記事に着目)】



##### 【新聞の見比べ ～2社の新聞を比較～】



新聞の1面記事に着目して、新聞を見比べてみる。  
 両社の1面記事の共通点や掲載されている内容の共通点等を見比べた。  
 こうやって、見比べるのも初めてのようで、真剣に集中して見比べていた。  
 ある児童からは、2社の共通点の記事から、「この記事は、テレビでもよく放送されています。」など、1面記事は、その新聞社が読者(読み手)に一番知らせたいこと等、色々な意見が出た。  
 見比べてみることで、これまで気づかなかった視点や新たな視点が見つかるいいきっかけとなった。

1週間分の新聞をそれぞれ、7日分を各グループに配布した。  
 同じ日に発行された1日分の新聞「沖縄タイムス」「琉球新報」の2社を比較し、新聞の全体的な見比べを行った。  
 その後は、気になった記事に付箋紙を貼り、気になった理由をそれぞれのグループで発表する。  
 わからない漢字等は、辞典で調べたり、グループで読み方を教え合いながら、学習を行った。

##### 【新聞の見比べ ～3社の新聞を比較～】 ～沖縄タイムス、琉球新報、朝日新聞～】



##### 【新聞の見出しを考えよう→考えた見出しを発表しよう】



新聞の特徴を探し、新聞の構成について改めに見直した。また、その際に、5W1Hに気をつけながら記事を読む練習も行った。

新聞記事からその次に、教師が意図的に収集した新聞記事を児童に提示した。

「アジア選手権 福島選手 100M 優勝」の同じ出来事の記事(朝日と沖縄タイムス)を提示。2社の記事の見出しを隠したものを提示した。

同じ話題の記事でも記者(作り手)の伝えたい視点・意図によって見出しも違ってくことを学んだ。

記事の内容から「見出し」を考える授業へシフトしていった。

その流れは、下記のような流れで構成していった。

①新聞の1面の特ちょう探し→②新聞記事の見出し作り→③考えた見出しを発表



【読売ワークシート通信の活用】



読売新聞東京本社 教育支援部から発行されている「読売ワークシート通信」（小学校版）を活用し、道徳や家庭学習等に活用した。

1週間ごとに、タイムリーな話題の記事を読んで設問に答えるワークシートがメールで届く。ワークシートは、PDF ファイルで配信され、教科・領域別、学年別、内容の難易度別に配列されており、それぞれの学年、クラスでも気軽にできる活用の一つである。一枚で完結できる内容となっており、NIE の初期段階の取りかかりの一つとして、実際に新聞をスクラップする際に、どのような設問をするか等の参考になった。

【2年目の実践について】

【「基地問題について考える」】



総合・社会の授業で活用。総合的な学習の時間での「平和学習」の導入の授業として。

「基地問題」の背景について考えていく授業に新聞を切り口に考えていった。

「9万人超の集会」は、本校の読谷村で実施されたものであり、子ども達もその集会の実際には知っている子どもも少なくはない。

「写真から基地の実際を予測させ、どれくらいの基地があるか?」「基地があることに賛成か反対か」などと新聞や資料を組み合わせさせて考えていった。

授業の初めで、「基地に賛成に18人 反対9人」だったが、授業後には、「賛成7人 反対20人」となった。子ども達の感想にも、「基地問題について、深く考える機会になった。」「沖縄だけ、こんなに負担を背負うのはおかしい」など。

この授業後、新聞で基地問題について考え、基地問題に関する記事を読む児童も増えた。

【「東日本大震災について考える」～全児童対象に「人権の日」に活用～】



毎月第1週金曜日に実施される「人権の日」で活用。

「読売ワークシート通信」の記事と「朝日新聞社」「毎日新聞社」の震災後から記事を集めた冊子を資料として、「震災のことについて」「今、自分達にできることは何か?」などについて、考えていった。

写真を通して、被害にあった地域を目にすることで改めて、その震災の怖さやその被害の大きさが感じていた。テレビとは、違いじっくりと見ることが出来る新聞の利点。その他、記事から、それに負けずと頑張っている方々の様子を考えるいい機会となった。新聞に掲載される写真の影響力の大きさも改めて感じた瞬間だった。

【「新聞記事から割合について考える」(算数)】



各高校の「志願倍率」の記事をもとに、志願倍率は、どのようにして求められていくか。新聞記事をもとに考えていった。

実際の生活の場でも、こうやって使われているということ気付かせるために、実施した。子ども達も、算数で習ったことをもとに、考えていった。答えがでると「なるほど」と言う児童も多かった。

こういったように、新聞には、色々な記事が多彩に記載されているので、色々な教科に応用できると感じた。

【2つの新聞を見比べる(地方紙と全国紙)】



全国紙と地方紙の違いについて、同じ期日の新聞記事で比較した。

NIE の実践校であることで、全国紙と地元紙を同じ時期に読むことができる。そこで、今一度、その特性について、情報教育の視点も加味して、授業に取り入れた。

平成23年11月23日(水)の毎日新聞と沖縄タイムスの1面をB4の大きさで、それぞれ配布して、ペア同士で、共通点、相違点について調べていった。「同じ日の新聞なのに、1面の取り扱いが違うのは、なぜか?」について考えた。

またマスメディアが伝える情報には、全て製作者の意図が入っていることを確認していき、作り手(製作者)の視点をもって考えることができた。

【「スクラップ新聞作り」】



これまでのNIEの総まとめとして、クラス28人で取り組んだ「スクラップ新聞作り」。

＜作成の手順＞

- ①テーマ決め→②テーマに関する記事をスクラップ→③スクラップ新聞の構成イメージ作図
- ④スクラップした記事に対する考え、意見をノートにまとめる→⑤考え・意見の推敲
- ⑥あらかじめイメージした構成図をもとに模造紙にスクラップした記事を貼りつけていく。
- ⑦それぞれの記事の意見・考えを書く→⑧相手が読む際に見やすくなるように、色付や装飾を行う。
- ⑨最後に、誤字脱字等をチェックして完成。

NIEの総まとめの学習として作成した「スクラップ新聞作り」。大きな模造紙に、テーマに関する記事を集めるまでは、順調に進んだが、記事に対する意見・考えのノートに下書きする段階では、あえて厳しく「何を記事から感じ、どう思ったか」など、聞き直したりして、何度も読み直しさせたり、何を新聞にまとめていきたいかなどを行った。推敲をしていくうちに、まとめ方や考える視点、見る視点も上達していった。

スクラップ新聞を通して、一つのテーマに対して深く考える機会となった。作成の途中にも「こんな記事探してみよう」「この記事使ってみたら」など、子ども達同士で協力したり、話し合う場面が多々見られた。

「第1回沖縄県スクラップ新聞コンテスト」では、クラスから28人中、6名の受賞を頂いた。県教育長賞（1人）、優良賞（2人）、佳作（2人）、入選（1人）の計6人。



「県教育長賞 玉那覇佐弥」



「優良賞 久場 愛梨」



「優良賞 古堅 みずき」

【「スクラップ新聞 1分プレゼン」】



所定のワークシートに、「スクラップ新聞 1分プレゼン」で伝える情報を書きこむ。

- ①「この記事が伝えたいことは？」→②「その意味は？」→③「詳しく説明すると」
- ④「この記事を選んだ理由」→⑤「読んでみての自分の感想」

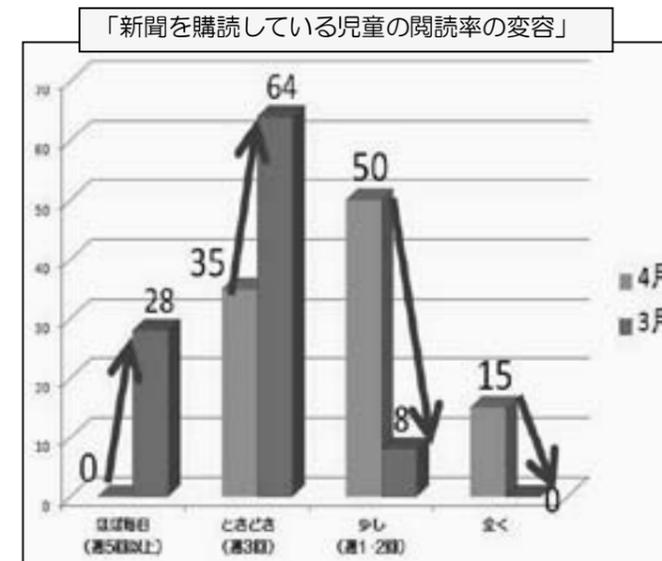
上記の内容を1分以内で発表する。ここで大事なのが、1分でプレゼンするには、記事の内容を短い言葉でまとめなくては、1分以内で発表することができなくなる。はじめは、新聞の記事を写し発表する児童もいたが、時間内に終わらないことを実感し、改善する児童も多数いた。また、時間ぴったりや30秒で発表する児童を模範に、内容を短い言葉でまとめようとする児童が増えてきた。

聞く側が時間も確認することができるように、大型テレビに時間を提示したり、発表する記事を拡大提示して相手に分かりやすく伝えることを意識させて発表を行った。

このプレゼンを通すことで、記事の内容をより深く読む児童、ポイントを短い言葉で発表できる児童が増えた。

5. 成果と課題

【成果】



- ・NIEを通して新聞を読む児童の割合が増えた。(左グラフより)
- ・新聞に対する意識や見方が変わった。
- ・新聞が身近なメディアと感じる児童が増えた。
- ・NIEを通して、記事をしっかりと読み、短い言葉でまとめようとする児童が増えた。
- ・教科、領域と意図的に活用することで、授業内容の深まりがあり、効果的だった。
- ・「スクラップ新聞」「1分間プレゼン」など、新聞を1つの教材として効果的に使うことで表現力、文章力が高まってきている。
- ・全国紙と地元紙を比較読みでき、勉強となった。
- ・教師もNIEを通して、児童と同様、新聞の見方活用の仕方等、学ぶことが多々あった。

【課題】

- ・初年度、実践にあたり、色々と見通しを立てつつも、上手いかわなく四苦八苦した。
- ・授業時数との兼ね合いもあり、普段から活用する教師の見通しが大事となる。
- ・全校体制で活用という段階までいくことができなかった。
- ・新聞の部数の確保。低学年（1・2年）中学年（3・4年）高学年（5・6年）に1部ずつの計3部程度あると、より活用の幅が広がるのではと感じた。

# 平成23年度 漢那小学校 NIE実践報告

## 1. NIE実践校応募の動機

本校は平成20年度～22年度、沖縄県教育委員会指定研究校「開かれた学校づくり」の領域で「世界へ夢が広がる学校の創造」の研究テーマで様々な実践を通して、子どもたち一人一人が夢に向かってチャレンジしている。

具体的な取り組みでは「新聞・テレビ・インターネット」の最新情報から、世界に目を向け、世界の今の出来事や、各地の話題を見つけ、情報を整理し、まとめ、発表している。

また、教職員研修では「県内新聞を活用した学級通信の書き方、言語活動における文章表現について」など新聞を活用した研修に取り組んでいる。

さらに、学校の行事等、明るい話題が新聞に掲載できるよう「取材依頼や電話連絡による連絡」等、明るい話題が新聞記事になるよう努めている。学校の話題が保護者や地域でも話題になり、信頼される学校づくり、地域に開かれた学校づくりに寄与している。

このように、本校は新聞を活用した取り組みが日々実践されている。今回NIE事業を活用し、新聞を活用した授業実践、新聞を活用した学校経営の充実に展開していきます。

2010年度NIE実践校を希望します。

## 2. テーマ設定

### 漢那小学校テーマ

子どもたち一人一人を輝かせ、世界へ夢が広がる開かれた学校の創造  
～夢に向かってチャレンジする児童の育成～

### NIE実践テーマ

世界へ夢が広がる新聞活用

## 3. 実践内容

### (1) 平成22年度の実践

#### サブテーマ

～新聞に親しもう～

新聞に親しむ環境作り

#### ①新聞コーナーの設置

- ・1階多目的ホールの新聞コーナー
- ・各学年新聞コーナーの設置（各学年廊下）

1階多目的ホールの新聞コーナー 9月



5年廊下新聞コーナー 10月



### ②掲示板の活用

- ・1階多目的ホール掲示板の活用



- ・2階放送室横掲示板の活用



### ③授業での新聞活用

